

[分類]	普及技術
[成果名]	ももとネクタリンの灰星病防除にファンタジスタ顆粒水和剤が有効である
[要約]	ももとネクタリンの灰星病防除にファンタジスタ顆粒水和剤の3,000倍液を散布する。 本剤はQoI剤である。耐性菌の出現を回避するため、同一薬剤及び同一作用機構を有する薬剤の連用、多数回使用を避ける。
[担当]	果樹試験場環境部
[部会]	病虫部会

1 背景・ねらい

もも、ネクタリン栽培において灰星病は果実に甚大な被害を及ぼすおそれがあり、防除の重要度が高い病害である。本病の防除は、収穫3週間前頃から収穫直前までの薬剤散布（作用性の異なる薬剤を用いたローテーション散布）が必要となる。そこで、既に普及済みの主要薬剤と異なる作用性を有するファンタジスタ顆粒水和剤の本病に対する防除効果及び薬害の有無を検討した結果、有効性が認められたため今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) ももとネクタリンの灰星病防除にファンタジスタ顆粒水和剤の3,000倍液を散布する。

農薬登録内容

ファンタジスタ顆粒水和剤

[一般名及び成分含有量] ペリベンカルブ 40.0% (FRACコード^注):11)

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない [魚毒性] —

[対象作物に対する適用登録状況（平成26年9月30日現在 JPP-NET 確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍数	散布液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペリベンカルブを含む農薬の総使用回数
もも ネクタリン	灰星病 黒星病 ホモプシス腐敗病	3,000	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内

注) FRACコードとはFRAC(殺菌剤耐性菌対策委員会)が定める殺菌剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細はJapan FRACのホームページ(<http://www.jfrac.com/>)を参照する。

3 利用上の留意点

- (1) 灰星病は発病果実からの二次伝染を繰り返し、被害が深刻となるため、発病果実は見つけ次第除去する。
- (2) 本剤はQoI剤であり、薬剤耐性菌の出現する可能性が高い。耐性菌の出現を防ぐために、同一薬剤及び作用機構の同じ薬剤の連用、多数回使用は避け、作用機構の異なる薬剤とのローテーションによる使用とする。
- (3) 蚕に対して影響があるため、周辺の桑葉にかからないように注意する。

4 対象範囲

県下全域、もも栽培地域1,150ha

5 具体的データ

(1) ファンタジスタ顆粒水和剤のモモ灰星病に対する防除効果及び薬害の検討

ア 平成17年に果樹試験場ほ場で試験を行った(表1)。無処理区での灰星病の発生は、樹上及び貯蔵後とも多発生となった。

ファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍液は、対照のロブラール水和剤より優る防除効果で、無処理と比べて高い効果が認められた。薬害の発生は認められなかった。

表1 モモ灰星病に対するファンタジスタ顆粒水和剤の防除効果(平成17年、果樹試験場)

供試薬剤	希釈 倍数	樹上調査			貯蔵調査			薬害
		調査果数	発病果率(%)	防除価 ^{a)}	調査果数	発病果率(%)	防除価 ^{a)}	
ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000	143.5	3.9	94.2	65.0	8.6	83.1	なし
ロブラール水和剤	1,500	102.0	3.9	94.2	68.5	20.6	59.7	なし
無処理	—	86.5	66.4		31.5	51.1		

a) 防除価=100-(処理区の発病果率/無処理区の発病果率)×100

試験場所: 須崎市果樹試験場内ほ場。発生状況: 樹上、貯蔵後ともに多発生

供試品種: 「川中島白桃」(7~8年生)。試験規模: 1区1樹、3反復

薬剤処理: 平成17年7月20日、8月3日及び8月17日の計3回、動力噴霧器で十分量を散布した。

調査: 平成17年8月31日に全果実を収穫して発病の有無を調査した。収穫前に落果した果実については発病の有無を調査し、樹上調査に含めた。また、外観上健全な果実を処理区では各区約60果を、無処理区では全果をコンテナに並べ、室温で5日間貯蔵し、累積発病数を調査した。薬害の発生の有無については随時、観察調査した。

イ 平成26年に果樹試験場内ほ場で試験を行った(表2)。無処理区での灰星病の発病は、樹上で少発生、貯蔵後は多発生となった。

ファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍液は、対照のロブラール水和剤より優る防除効果で、無処理と比べて高い効果が認められた。薬害の発生は認められなかった。

表2 モモ灰星病に対するファンタジスタ顆粒水和剤の防除効果(平成26年、果樹試験場)

供試薬剤	希釈 倍数	樹上調査			貯蔵調査			薬害
		調査果数	発病果率(%)	防除価 ^{a)}	調査果数	発病果率(%)	防除価 ^{a)}	
ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000	58.0	0.8	95.3	42.5	0	100	なし
ロブラール水和剤	1,500	49.0	1.1	93.5	42.0	4.6	91.9	なし
無処理	—	58.5	17.0		41.0	56.9		

a) 表1と同じ

試験場所: 須崎市果樹試験場内ほ場。発生状況: 樹上は少発生、貯蔵後は多発生。

供試品種: 「川中島白桃」(16~17年生)。試験規模: 1区1主枝~1樹、2反復。

薬剤処理: 平成26年8月6日、8月14日の計2回、動力噴霧器で十分量を散布した。

その他: 試験開始前の平成26年6月17日~8月4日まで試験区的全果実に果実袋を被袋し、自然感染を防止した。

調査: 平成26年8月27日、28日に全果実を収穫して発病の有無を調査した。収穫前に落果した果実については発病の有無を調査し、樹上調査に含めた。また、外観上健全な果実を各区約40果選びコンテナに並べ、ビニールで覆った後、室温で7日間貯蔵し、累積発病数を調査した。薬害の発生の有無については随時、観察調査した。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

果樹の新規農薬等の効果試験、平成17~26年度(2005~2014年度)、協力研究